

まちなかライフのプロが教える

まちなか時間を楽しむ3つのポイント



教えてくれたのは
熊本市エリアマネージメントアドバイザー
やました ゆうこ
山下 裕子さん
「全国まちなか広場研究会」理事であり、「広場ニスト」の肩書きを持つ。本市では、人が集う魅力的なまちづくりについてアドバイザーを務める。

ポイント1

まちなかまでの移動は公共交通機関で

バスや市電で移動するメリットは、移動のたび駐車場へ戻る必要がないこと。「戻らなくていい」と思うと気の向くままに足がどんどん進みますし、同じ道を通らずに同じ場所に戻れると、楽しさも発見も4倍に。それができる豊かな屋外空間が熊本にはたくさんあります。

ポイント2

ガッチリ予定を決めずその日の気分を大切に

おもしろい人・コト・モノが集まっているのがまちなかですので、その日の天気、気分、出会った人によって予定を決めても十分楽しめます。予定に縛られず、感じるままにやりたいことをする。「幸福=選択肢の豊かさ」という価値観に気付けるのもまちなかです。

ポイント3

ベンチを見つけたら休むことを心がけて

こまめに休んで疲れをリセットすると充実感がより大きくなります。遊歩道や公園など見回すと休憩スポットがいっぱいあるのでぜひ座ってみてください。また、家族全員でずっと一緒に行動するのではなく、「ママかパパが交代でロビーのベンチで休む」なんて選択肢もありですよ。

モデルコース1 Aさんファミリー（中央区在住／父30代、母30代、長男7歳、長女4歳）

テーマ “「しろめぐりん」で城下町を散策”

午前11時半

市電でまちに到着

まだ子どもが小さいため、普段は自家用車で移動しているというAさんファミリー。子どもたちは市電やバスに乗れるだけで大興奮。いつもとは違う車窓の景色を楽しみ、まちに着いた時点でテンションはのぼり調子♪



スタート



ながべい 熊本城の長堀沿いを散策

「熊本城・市役所前」電停で下車し、城彩苑に向かって長堀沿いを進みます。歩行者専用の遊歩道のため子連れでも安心。展望スペースからお城を眺めると晴れやかな気持ちに。

正午

城彩苑で遊ぶ・食べる

熊本城ミュージアムわくわく座で芝居を観たり、体験プログラムを堪能した後は、桜の小路で熊本自慢のうまいものをテイクアウト。気になる逸品をセレクトして、ベンチに座ってピクニック気分で食べ比べしちゃおう。



午後1時25分

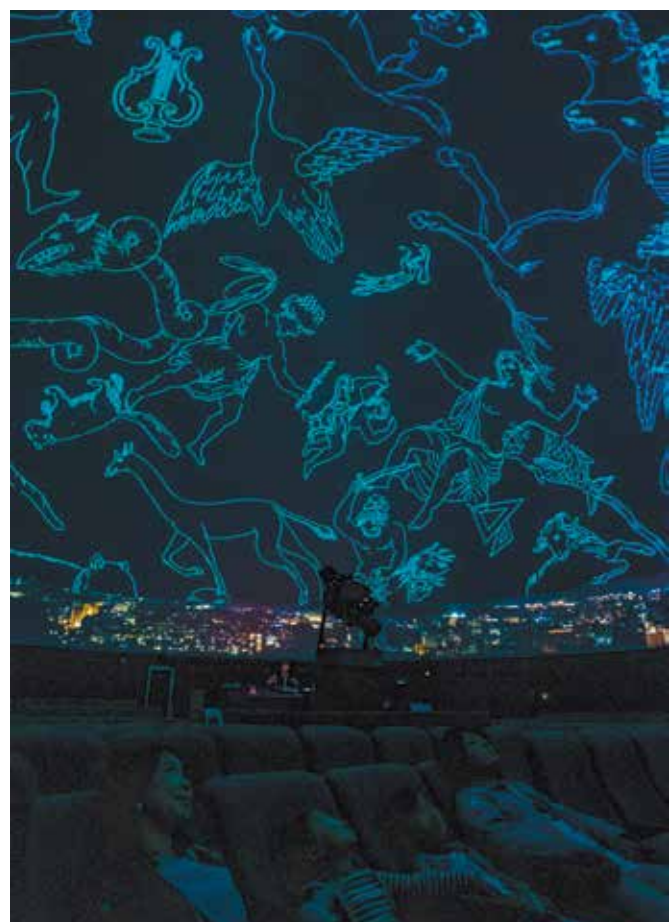
「しろめぐりん」で博物館に移動

子どもたちは、地元出身タレント・コロツケさんの車内アナウンスに合わせて「あれ見て!」「スゴイ!」と大興奮。移動の時間も発見のあるスペシャルなひとときに。



しろめぐりん

周回コースをどこからどこまで乗っても大人160円、子ども80円。博物館やわくわく座の入場割引がついた1日乗車券(大人400円、子ども200円)もあります。1日乗車券の販売所は、しろめぐりん公式サイトを参照ください。



午後2時40分～

博物館でプラネタリウムを観覧

季節の星座を紹介したり、美しい星空と迫力ある映像を楽しめる約55分間のプログラム。久しぶりにプラネタリウムを訪れたパパの星空解説に子どもたちも感動!



昼食を食べた後、パパママは日頃の疲れが出て眠くなりがち。そんな時は無理せず、どちらかが子どもたちと楽しんでどちらかはベンチで休みましょう。肩の力を抜いて楽しむのがコツです。



午後4時

サクラマチ クマモトで遊ぶ!

再び「しろめぐりん」に乗りし、サクラマチ クマモトに移動。めざすのは、お城を望むビュースポットに遊具や人工池がある屋上庭園。日暮れまで堪能し、ビル内のバスターミナルから帰宅するとスムーズで楽ちん。

ゴール